

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価		学校関係者の 評価・意見	次年度への課題と 今後の改善方策
基本的生活習慣 の確立を図り、 望ましい校風を 樹立する。 （挨拶の励行）	①挨拶を励行する。 ②出席率を向上させる。	評価指標	①日常生活における挨拶を励行することで基本的生活習慣を確立する。 ②さわやかで活力あふれる富東生を目指し、出席率を85%以上とする。	評価指標の達成度	①登校時の挨拶指導で、生徒から教員へ話しかける場面が多く見受けられた。 ②2学期末現在の全学年の出席率は、1年生97.4% 2年生 94.8% 3年生 85.2% 4年生 88.1%である。全学年で85%を上回ることができた。全体では91.4. % (昨年86%) ③各学期当初の個人面談によって、生徒の生活習慣や学習状況等を把握し、適切な指導を行った。	総合評価 (評定) A	エナジードリンクによる中毒症状により、生活習慣が乱れるといった事例が、近年の中高生に見られるようである。校内の自販機での販売は、そのようなドリンク類はふさわしくないのではないかと思われる。
		活動計画	①毎日の立哨指導を実施し、生徒への声掛けを積極的に行う。 ②個人面談を実施し、生徒とコミュニケーションを図ることにより、生活習慣・学習状況等の把握に努める。	活動計画の実施状況	①毎日、できるだけ多くの教員で校門及び昇降口指導を行った。 ②年間3回の個人面談を実施した。	(所見) 出席率については、全学年目標を上回ることができた。挨拶指導や個人面談を通じ、良好な関係が醸成されている。	
職業と学業を両立させるたくましい精神力と豊かな人間性を育成する。	①たくましい精神力の育成に向け健康相談・教育相談を充実させる。 ②関係諸機関との連携により、個々の生徒に応じた就労支援を行う。	評価指標	①課題の把握により、教職員の共通理解を図り、支援方針を立て解決を目指す。 ②就労生徒へのサポートを行い、職業と学業の両立を図る力を育成する。	評価指標の達成度	①1月末現在の生徒の「健康相談」の件数は、5件であったが教職員間で共通理解を図り、日常的に支援している。(昨年1件) ②就労率は1月末現在で55.5%であった。継続してサポートしていきたい。(昨年57.9%)	総合評価 (評定) B	「自尊感情」「自己肯定感」を高めることは非常に大切。何か行動を起こすときには、自信を持って取組めるよう今後も生徒との関わりを継続してほしい。 高校で学んだことや、得たことを糧にして、出口である進路に向けての取組を期待したい。
		活動計画	①職員室隣室を必要に応じて使用し、スクールカウンセラーと協働して支援にあたる。 ②関係諸機関と連携し、就労に関する情報の収集を行い、個々の生徒に応じた就労相談・職場訪問や開拓等を推進する。	活動計画の実施状況	①1年生全員に、入学時にスクールカウンセラーが面談を行い、高校生活についての不安な事などを聞き取り、支援した。 ②ハローワーク等とも連携し個別相談を行ったり、自衛隊見学に参加する生徒を引率したりするなど就労支援に努めた。	(所見) 生徒の現状を把握し、教職員の共通理解を図り、適切な対応をすることができた。	
生徒一人一人の基礎学力の向上と進路指導の徹底を図る。	①「漢字スキル学習」を中心に、基礎学力の向上を図る。 ②各種資格試験や検定試験にチャレンジさせ、知識・技能の向上を目指す。 ③ICT機器を有効に使用し、スキルアップを図る。	評価指標	①漢字スキル学習では、各自に応じたレベル別の課題に取り組み、40%以上の生徒が上のレベルに上がることを目指す。 ②各種資格試験や検定試験の受検者数30パーセント以上を目指す。 ③各授業でのICT機器の活用率30%以上を目標とする。	評価指標の達成度	①漢字スキル学習では94.1パーセントの生徒が上のレベルに上がることができた。 ②各種資格試験の受験者数はのべ32人(実人数11人)で、64.7%であった。全商ビジネス文書実務検定1級ビジネス文書部門に合格した。 ③2学期末時点における各授業でのICT機器の活用率は47.6%であった。(昨年45%)	総合評価 (評定) A	資格試験や学習の成果が上がれば、自己肯定感も向上し将来に役立つと思われるので、今後も続けてほしい。 定時制のHPは、生徒もよく協力し定時制に入学してよかったということが伝わってくる。
		活動計画	①個々に応じた指導を心掛け、毎日の「漢字スキル学習」に取り組み、丁寧に字を書く練習を行うと共に、各教科担当教員と協力し受検奨励及び対策を行う。 ②資格試験の準備に意欲的に取り組めるようにプリント等を活用し、授業開始前や放課後に補習を行う。 ③-1遠足の行き先について、生徒によるプレゼンテーションを実施し投票により決定する。 ③-2各種アンケートをFormsを使って実施する。 ③-3学校紹介動画を生徒が主体となって作成し、HPにアップロードする。	活動計画の実施状況	①毎日2時間目の始業5分間で「漢字スキル学習」を行った。 ②資格試験については、始業前に個別指導を行い、授業については、プリント配布に加え、電子黒板、生徒用タブレットを利用し、基礎学力の定着を図った。 ③-1 投票により決定し、実施した。 ③-2 校外のアンケートについて、生徒用タブレットを用いて回答した。 ③-3 学校紹介動画の他、エシカル、文化祭、GIGA活動報告、特別活動の様子について作成し、HPにアップロードした。	(所見) 年間を通したそれぞれの活動を通じて、自己肯定感の向上や、卒業後の進路への展望を持たせることができて	

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価		学校関係者の 評価・意見	次年度への課題と 今後の改善方策
家庭や地域社会との連携のもとに生徒指導の充実強化に努め、安全指導の徹底を図る。	①安全教育の啓発を行うと共に、災害時の対応力を養う。 ②生徒の情報共有のための職員打合せを毎日実施し、個に応じた生徒指導を徹底する。	評価指標	①安全教育の授業や防災・避難訓練と心肺蘇生・AED講習を年3回行う。 ②生徒の情報共有のための職員打合せを毎日2回行い、生徒一人一人の課題に応じて、教員全員で粘り強く指導にあたる。	評価指標の達成度	①防災・避難訓練を3回、心肺蘇生・AED講習を2回実施した。今年度新たに不審者対応訓練を2月に予定している。 ②1月末現在の生徒の情報共有数はのべ94名であり、共通理解を図った。(昨年 113名)	総合評価 (評定) A ----- (所見) 防災・安全教育を通し、安全意識の向上に取り組むことができた。	違法薬物が県南でも話題になっており、すぐ近くまで来ているという危機意識が必要だ。その点を踏まえた対策をしっかりと行ってほしい。また、不審者の侵入対策も、引き続き行ってほしい。
		活動計画	①年間計画に沿った安全教育や防災・避難訓練を通じて、災害に対する事前準備と災害発生時の正しい対応力を身に付けさせる。 ②生徒の情報共有のための職員打合せを毎日実施し、様々な情報を共有することで、個に応じたきめ細やかな指導を行う。	活動計画の実施状況	①命や生活の大切さを考えさせ、自主的に安全な行動ができるよう指導した。 ②生徒の情報を教職員間で共有し、話し合いを重ね、きめ細かな指導に結び付けた。		
教育活動の全領域において人権教育の徹底を図る。	①いじめ等の問題行動の未然防止に努める。 ②人権講演会や職員の研修を充実させる。 ③人権に関する行事を実施する。	評価指標	①いじめ・悩みアンケートを年3回、基本的生活習慣調査を年1回、それぞれ実施し、それを基に面接を行うことで細かい対応を行う。 ②人権講演会を年1回以上実施し、校外研修に全教職員が1回以上参加する。 ③身元調査お断りワッペン運動、生徒人権発表会を年1回以上実施する。	評価指標の達成度	①当初の計画どおり各学期にいじめ・悩みアンケートを、1学期に基本的生活習慣調査を実施し、面接等で丁寧に聞き取りをした。 ②スクールカウンセラーを講師とし「心の授業」というテーマで、講演会を実施した。 ③身元調査お断りワッペン運動、生徒人権発表会をともに1回ずつ実施した。	総合評価 (評定) A ----- (所見) アンケート後の面接で丁寧な聞き取りをし、生徒の状況把握及びフォローを行った。また、3月には新たに、「生徒の人権問題研究発表会」を予定している。	カウンセラーについて、必ずしもアドバイスがなくても寄り添うだけでも効果があると言われている。そのような視点を持って、活用していただきたい。
		活動計画	①各種アンケートを実施し、生徒の状況把握に努める。 ③研修受講後に意見交換をきめ細かに行う。 ③身元調査お断りワッペン運動及び生徒人権発表会を実施し、生徒が主体となって活動する。	活動計画の実施状況	①把握した生徒の状況については教職員間で共通理解を図り、解決に向けて取り組んだ。 ②研修受講後のまとめや伝達により、教職員間で情報の共有を図った。 ③身元調査お断りワッペン運動をフジグランの玄関で実施した。		
生徒の個性と自主性を開発伸長させ、有為な社会人を育成する。	①地域の清掃ボランティア活動への参加を促す。 ②個性発揮の機会として、定通連の美術作品展や球技大会等への参加を奨励する。	評価指標	①清掃ボランティア活動を年1回実施する。 ②定通連球技大会への参加を15%以上、美術作品展への出品数を20以上にし、様々な校外行事への参加率を55%以上とする。	評価指標の達成度	①予定の日に雨天だったため、校舎内の清掃を行った。 ②定通連球技大会は31.6%出場（卓球女子準優勝）、美術作品展の出品数は25作品、入賞数1、校外行事への参加は70.0パーセント（昨年度59.7%）	総合評価 (評定) A ----- (所見) 様々な体験的行事を開催することは、生徒にとって有意義であった。様々な人と触れ合うことにより、コミュニケーション能力の向上にも役立っている。	遠足の行き先を、生徒がプレゼンテーションを行い選挙で決定するのは、主権者教育のみならず、これから世界に出て行く中で、自分の意見を発信することは中高の生徒さんにも大切なことであり、素晴らしい取り組みである。
		活動計画	①地域の清掃活動へ参加することで地域社会に貢献し、社会への主体性と奉仕の精神を養う。 ②美術作品作りや球技大会の練習等について、各教科の教員にも協力を得る。 遠足の行き先を生徒のプレゼンテーションと投票により決定する過程から、主権者教育についての理解を深める。	活動計画の実施状況	①校舎周辺の清掃活動に取り組み、社会参加への主体性と奉仕の精神を養った。 ②美術作品展については、専門の教員がいなかったが、職員で協力して指導し全員が出品することができた。 遠足の行先について4人の生徒がプレゼンテーションを行い、大阪心斎橋から通天閣周辺への遠足を実施した。		
教職員の資質向上と、教職員の働き方改革を推進する。	①様々な研修を受講し、各自のスキルや意欲の向上を図ると共に、会議やOJT等で共有を図る。	評価指標	①教員研修を様々な形態で20回以上実施することにより研究と修養に努め、教員の資質と専門性の向上を図る。	評価指標の達成度	①校内コンプライアンス研修及びその他の研修を3/1現在で16回以上実施している。また、校外での様々な研修にも参加した。	総合評価 (評定) B ----- (所見) 希望研修にも積極的に参加し、様々な教育課題に対して研鑽を重ねることができた。	教職員全員が、安全安心を担保する学校作りに参加するという自覚と責任を持つことにより、さらなるコンプライアンス意識の醸成を図っていただきたい。
		活動計画	①全教員が各研修を積極的に受講し、実践力を高める。 ②始業時と終業時の毎日2回の打合せやOJTにより、研究と修養に務める。	活動計画の実施状況	①全教員が意欲的に各研修を受講し実践力を高めた。 ②打合せやOJTにより、情報共有を行い、一人ひとりの生徒の課題に対応したきめ細かな指導を行うことができた。		